

独立行政法人統計センター評価に関する有識者会議〔議事要旨〕

1 日 時:平成 28 年 7 月 25 日 (月) 15:00～15:50

2 場 所:総務省第 2 庁舎 7 階中会議室

3 出席者:(有識者) 廣松毅 (座長)、岩下真理、引頭麻実、加藤久和、小林稔 (敬称略)
(総務省統計局) 會田統計局長、井上総務課長、山形統括補佐
(統計センター) 山田経営審議室長、杉田管理部長、油井統計編成部長、栗原統計情報・技術部長、小澤参事

4 議題:(1) 平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価(案)について
(2) 総合評定 (案) について
(3) その他

5 議事概要:

(1) 総務省統計局から平成 27 年度に係る業務の実績に関する主務大臣による評価 (案) の説明が行われた。

(2) 質疑が行われた後、総務省統計局から総合評定 (案) について、説明が行われ、項目別評定及び総合評定ともに妥当であるとの意見で一致した。

(3) 有識者からの主な意見等は以下のとおり。

○総論としては、今回の評価に関して特に異論はない。基準は平成27年度の評価をするために決めたもの。今般出た具体的な意見をもって、基準の見直しを視野に入れて検討していただきたい。

○評価基準について、例えば国際協力の部分の視点は「国際機関及び各国における統計活動への協力について取り組んでいるか。」となっており、何がゴールか、何がアチーブメント (達成、業績) なのか分かりにくいので、そこが明確になるような評価基準にすべきではないか。

○評価基準に従って評価しているため仕方ないと思うが、人員の削減といった量的な効率化ばかりが評価の対象となることに違和感がある。

○評定はBが標準となっているところ、今般はCとなったものもあり厳しい印象を受ける。しかしそういった状況で統計センターだけが評価を上げることもできないので、今回の意見を踏まえて、来年の評価に反映できれば良い。

○科学技術研究調査の調査票の紛失によって、セキュリティの強化を行ったと思うが、人材の育成等についての説明が無い。再発防止について、組織として外から見ても分かりやすいように、他の項目にもつながるような説明を示せると良い。

○全国消費実態調査の投入量については、-9.6%という削減を達成したが、加点がない。今後10%以上の削減は難しいと思う。ここ数年随分努力していると思うので、次回以降は評価基準を実態に即した形に見直す必要があるのではないかと。

○質的な評価を加重するため、項目を増やすことはできないか。量的な項目が多いように

見える。努力の結果が表に出て来づらい。職員のモチベーションのためにも、質的な評価にかかる項目を増やしてもよいのではないか。

また、質的な評価については「満足度」があるが、どれだけアクセスされているかといった利用実績についても評価できないか。

○前年度がどのような評価であったか見えるようにしてはどうか。これにより、今年度の努力が見えるようになるのではないか。

○一般マイクロデータの提供は、今後の統計の研究等に対して大きなインパクトを与えていくものであり、今後は高く評価していくべきである。また、カンボジア支援については、これだけ評価を頂いているのであれば、この点についてきちんと評価をしていく必要がある。

○評価の視点の効率化（要員投入量等）による評価点について、減少率20%に対しては100点の加点であるが、増加率20%に対しては150点の減点となっている。減少も増加も同じ配点での評価にしないと公正でないのではと思われる。

○評価全体が自制的になっており、対外的にPRするスタンスも必要なのではないか。国際協力や研究に関する事項については、目標等について想定を超えて達成した場合は高く評価してもよいのではないか。

以 上